

CHALLENGE! フードロス削減 アイデア コンテスト

保存技術を広く活用するためのアイデアを高校生・高等専門学校生に募集します。楽しいアイデアをお待ちしております！



プラチナ触媒を活用したフードロス削減のアイデアを募集します。アイデアの対象は、農林水産業の生産物（花き等の園芸作物を含む）、食料品全般とします。

プラチナ触媒とは、北海道大学触媒科学研究所の福岡淳教授らが開発した低温環境下（0℃）でエチレンを完全酸化する技術です。エチレンは、野菜や果物から発生し、熟成や腐敗を促進する植物ホルモンの1つです。

challenge the no foodloss idea contest

高校生・高専生のアイデアで、フードロス問題の解決へ。

参加条件

北海道内の高等学校または高等専門学校に在学する生徒のグループ。高等専門学校は、3年生までを中心とするグループとします。

応募方法

2021年8月末日までに、下記の応募様式を「no-foodloss.challenge@noastec.jp」にメールにて提出してください。



QRコードまたはURLよりダウンロードしてください。
*応募書類は返却しません。ご了承ください。

<https://challenge-field-hokkaido.jp/news/1038>

フードロス削減アイデアコンテスト

実施方法

書類審査により採択された 10 グループ程度にプラチナ触媒を貸与します。採択グループは、プラチナ触媒を活用してアイデアの実証・ブラッシュアップを行い、成果を 10 分程度の動画にまとめ、提出していただきます。

審査の視点

- 1 フードロスの削減という社会的な課題の解決に貢献するアイデアであるか。
- 2 従来の発想にとらわれない独創性・創造性に優れたアイデアであるか。

表彰

審査により受賞者を決定し、審査発表会において表彰します。表彰は、北海道知事賞、フードロス削減コンソーシアム賞、チャレンジフィールド北海道賞、セコマ賞ほか協賛企業による賞を予定しています。

FAQ

- Q 応募グループに人数制限はありますか？**
人数に制限はありません。
- Q 1校から複数グループ応募しても良いですか？**
問題ありません。
- Q 同一人物が複数グループで応募することは可能ですか？**
1人1グループでのみ応募可能です。
- Q 審査員はどのような人ですか？**
フードロス削減コンソーシアム構成機関（北海道大学、公益財団法人北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）、北海道立総合研究機構、セコマグループ）の職員・研究員等、および北海道庁に所属する職員が審査を行います。

スケジュール

オンライン説明・質問会 —— 日程調整中
※決まり次第、お知らせいたします

応募様式受付期間 —— 2021年6月23日（水）
- 8月末日

1次審査 —— 2021年9月15日（水）

書類審査により 10 グループ程度を選考し、それぞれのグループにプラチナ触媒を貸与します。採択グループは、この触媒の活用によりアイデアを実証し、ブラッシュアップを行います。

採択グループ決定 —— 2021年9月15日（水）

実証・ブラッシュアップ —— 2021年9月中旬-10月下旬

フォローアップ質問会 —— 2021年9月下旬-10月上旬

採択グループが実証の進め方などについて福岡教授に直接質問できます。

実証結果動画提出 —— 2021年11月26日（金）17時必着

2次審査 —— 2021年11月26日（金）-12月中旬

採択グループより提出された動画により審査を行い、各賞及び審査発表会にて発表いただくアイデアを選出します。（代表5グループ程度）

審査発表会 —— 2021年12月下旬-1月上旬

代表グループの取り組みおよび各賞の発表を行います。代表となったグループは、当日会場またはオンラインにて出席いただけます。
日時：2021年12月下旬-1月上旬 14時-17時頃
場所：北海道大学 FMI 国際拠点 (<https://www.fmi.hokudai.ac.jp>)

Q 応募は郵送でも可能ですか？

応募は電子メールで応募様式を提出してください。

参照動画

北海道大学 福岡教授による「プラチナ触媒」についての講演が聴けます。是非参照ください。
※講演は、開始後1時間2分頃からです。



<https://www.youtube.com/watch?v=9IFJfSbDdRg>



情報について・・・

○応募書類に記載された個人情報には本アイデアコンテストの運営のために利用し、本人の承諾なしに目的外利用や第三者へ提供することはありません。○提出された動画は、フードロス削減を目的とするイベント等で公開することがあります。○アイデアの実証や実用化に向けて、事業者から提案があった場合は、あらかじめ応募校と協議します。